令和7年度

富山育英センター 県立高校受験動向予想

第4回育英模試「実力判定模試」結果報告
富山地区&新川地区分析

受験生の上位志向戻る！

入試問題の難化傾向は継続か？

まずは、普通科定員が40名削減され2年目となった、御三家（富山中部・富山・高岡）と呼ばれる3校の、令和6年度入試の結果から振り返ろう。富山中部の探究科学科が定員80名のところに188名が出願し、2.35倍の高倍率となった。次いで、富山の探究科学科が1.73倍、高岡の探究科学科が1.01倍という結果であった。また、御三家の探究科学科と普通科をあわせた実質倍率は、富山中部が1.06倍、富山が1.12倍、高岡が1.08倍となった。前年高倍率となった富山中部が微減、富山が変化なし、前年低倍率だった高岡が微増という結果だ。

次に、御三家に準ずる高校である富山東は1.11倍、高岡南は1.27倍と、例年よりも高倍率になっており、新型コロナウイルス感染症の影響で下火になっていた受験生の上位志向が、戻る兆しが見えた。現に、今年度の育英模試の志望状況を見てもこの傾向は続いており、激戦の様相である。

また、富山市内では、富山南の1.21倍、富山いずみ総合学科の1.28倍、富山北部普通科の1.53倍等、高倍率が目を引く。しかし、富山・高岡地区から一歩出ると、砺波の1.05倍、魚津の0.97倍をはじめとする、砺波・新川地区の低倍率化にはなかなか改善が見られなかった。原因としては、両地区の優秀な生徒達が、オープンハイスクール等を経て、御三家や富山東・高岡南に魅力を感じ、越境しての受験を考えることが多くなってきたからではないだろうか。

一方、職業科においては、富山商業の高倍率に注目が集まった。同校は、部活動で活躍する生徒も多いが、県内の企業と連携するなどし、文字通りビジネス感覚を養う教育がされており、学業だけではない未来を生きる力を得られることが人気の要因なのだろう。

次に、下記の資料をご覧いただきたい。これは毎年1月に実施する第6回育英模試の志望動向データを、昨年と一昨年の2年分並べたものである。多くの高校において、実際の倍率と密接な関係があることが読み取れるだろう。ただし、ひとつ注意していただきたいことがある。それは富山高専の影響である。富山高専の人気は変わらず高く、毎年優秀な生徒が同校を志望する。事実、昨年の富山高専の一般入試倍率は、国際ビジネス学科の3.50倍を筆頭に、電子情報工学科の2.68倍など県立高校を大幅に上回る激戦となった。本郷キャンパスに比較的近い富山南と富山いずみ、射水キャンパスに比較的近い呉羽と大門は、富山高専を不合格となった生徒が受験する可能性が高い高校と言える。育英模試の第一志望者数からだけでは読めない数の生徒が受験すると思った方がよい。

今年度の育英模試はあと2回あり、第6回は1月12日(日)、最終回は2月2日(日)に実施される。ぜひ受験し、進学相談会等で正確な入試情報を入手してほしい。

次に、入試問題について振り返ってみたい。昨年の県立高校入試の平均点は、100点満点換算で低い順に、数学47.1点、理科50.6点、英語53.3点と、ここまでは例年通り。さらに、社会55.4点、国語58.1点と例年平均点が高い2教科も、他の3教科と同等の難易度になった。数学が50点未満であることも目を引くが、注目していただきたいのは、全5教科の平均点が前年よりも下がっているということである。

平均点が下がる理由として入試問題の難化があげられる。では、なぜ作成者つまり、富山県は問題を難化させたのか。その背景には、大学入試の難化があるのではないだろうか。ご存知の通り、大学入試センター試験から大学入学共通テストに移行し、出題傾向も大きく変わった。まずは、文章量や英語の単語数の増加である。同じ試験時間で読解しなければならない文章が増えれば、当然時間切れが起こり得る。さらに、知識を問うだけの一問一答形式が減り、資料や会話を元に知識を活用したり、結果を考察したりするような問題で構成されている。現に、県立高校入試の各教科の問題にも、大学入学共通テストを意識したような問いが散見された。県は、高校入試を大学入試への通過点ととらえ、難化する大学入試に対応できる生徒を中学生の頃から育てていきたいというメッセージを、高校入試を通じて発信しているのではないだろうか。

富山県立高校入試における教科ごとの詳細については、裏面の育英センター各教科責任者の分析に注目していただきたい。

最後に、令和7年度入試の変更点について見ていこう。富山県内の中学卒業予定者数は、昨年比116名減の8,509名となる見込みである。それに伴い、県立高校の全日制課程の募集定員は昨年比82名減の6,024名となることが発表されている。各地区の卒業予定者の状況から、定員が減少するのは、中央農業（全学科合計3名）、八尾（10名）、富山西（20名）、伏木（15名）、砺波工業（全学科合計20名）、南砺福野（普通科20名）である。南砺平は全国募集枠として定員が6名増加する。

近年は、県内外の私立高校が特色ある教育を実践しており、受験生の中には、その魅力にひかれて私立高校を第一志望にする生徒が多くなっている。これまで同日実施だった私立高校一般入試だが、令和7年度入試より片山学園高校のみ試験日が異なる。これにより、私立2校の受験も可能となった。県立高校の受験校を決めるのはまだ先だが、私立高校の出願は迫ってきている。受験校と受験スケジュールをご家族でしっかりと検討してほしい。

富山県立高校入試まで3ヶ月を切った。後悔が残らぬように、最後まで全力で立ち向かおう。我々も、そんな受験生を応援している。合格を目指して一緒に頑張ろう！

以下、10月に行われた第4回育英模試の結果から、県内3地区の責任者より、令和7年度の入試について詳細に予想・分析していく。

澤山 剛之［富山本部校］

富山地区

富山中部探究科学科に志望者集中!! その他の県立高校にも影響大

今年の富山地区の中3受験生の志望動向を、10月に行われた第4回育英模試の結果を踏まえ、考察していく。

まず、富山中部と富山では、探究科学科がともに高倍率だった昨年とは異なる志望状況となっている。第4回模試における両校探究科学科の第一志望者数は、定員がそれぞれ80名に対し、富山中部は140名、富山は44名であり、富山中部はすでに定員を大きく上回っている。また、富山は現時点で定員を下回ってはいるが、探究科学科と普通科の合算での第一志望者数は昨年の第4回模試と同数となっている。今年は富山中部を志望している生徒が例年に比べて非常に多いため、今後志望校を下げる生徒が出始める可能性もある。したがって、富山志望者は要注意である。両校とも探究科学科の高倍率は確実で、普通科との合算では、富山中部、富山ともに1.10～1.15倍と予想する。

次に富山東だが、昨年の倍率が1.11倍となっており、一昨年の0.93倍から戻した形となった。第4回模試の第一志望者数は昨年より20名以上減少してはいるが、富山高専の受験を考えている生徒の動向にも注意しておきたい。富山高専の受験をやめて、県立高校受験に専念する生徒や、富山高専を受験したが不合格になった生徒が、富山東を受験する可能性は十分にある。このことは、富山東だけではなく、呉羽や富山南についても同様である。この3校に関しては、富山中部、富山の志望者の動向と、富山高専の入試結果次第で倍率が高くなる可能性がある。富山東は1.02～1.07倍、呉羽は1.20～1.25倍、富山南は1.15～1.20倍と予想する。

富山いずみ総合学科は、昨年の倍率が1.28倍とここ2年ほど大きな変化はないが、他の高校に比べると、高い倍率である。第4回模試の第一志望者数は昨年よりもやや減っているが、傾向は変わらず、今年の倍率は1.30～1.35倍と予想する。

近年、高倍率が続いているのが富山北部である。昨年の倍率は普通科で1.53倍、くすり・バイオ科で1.11倍、情報デザイン科で1.09倍となり、学科によっては激戦となった。第4回模試における第一志望者数は、くすり・バイオ科では昨年よりもやや減少しているが、普通科と情報デザイン科では昨年と同様の人数で推移しているため、今年も学科によっては高倍率が予想される。普通科で1.55～1.60倍、くすり・バイオ科で1.05～1.10倍、情報デザイン科で1.15～1.20倍と予想する。

今年から定員減となるのが八尾と富山西である。近年、定員割れが常態化していたが、八尾は10名削減、富山西は20名削減と、倍率に影響を与えそうである。第4回模試の志望者数は昨年同様であり、ともに1.00～1.15倍となるのではないだろうか。

富山工業と富山商業は、学科ごとの状況は読みづらいが、第4回模試の志望者数は昨年とほぼ同数であることから、富山工業は各科0.90～1.50倍で、富山商業は各科1.20～2.00倍というところだろう。

このように富山地区では、多くの高校で倍率が高くなることが予想される。だからといって、弱気になり安易に志望校を下げてしまうと、より厳しい状況に陥る可能性もある。これからの努力次第で克服できる部分も十分にあるので、いま自分がやるべきことは何かを考えて、高い目標をもって受験までの時間を過ごしてもらいたい。

西村 康二［城南本部校］

新川地区

普通科を中心に倍率上昇の気配 富山中部・富山・富山東 現志望者の動向注意

令和6年度入試では入善普通科20名、魚津工業3学科計15名の募集定員削減があったが、令和7年度入試については、新川地区内の県立高校の定員変更はない。ただし下新川郡で計35名、滑川市で計41名、中3の生徒数が昨年より多く、新川地区全体では82名の増加となっている。これが倍率にどう影響するのか、10月末に行われた第4回育英模試の結果も踏まえ、考察していく。

最初に、地区トップの進学校である魚津だが、昨年は160名の募集定員に対し受験者は155名、4年ぶりの定員割れとなった。しかし、今年の第4回模試において、第一志望者数は昨年とほぼ変わらないものの、第一志望～第三志望の合計である総志望者は昨年比20%以上増加しており、今後富山中部・富山・富山東から魚津への志願変更が予想される。よって、最終的に1.05～1.15倍になるのでは、と予想する。

次に桜井普通科だが、近年は低倍率が続いており、昨年は魚津同様定員割れとなった。育英模試の志望動向にも現在のところ大きな変化はなく、倍率は1.00～1.10倍の範囲に収まるのではないかと予想する。土木科と生活環境科については、推薦入試の倍率と一般入試の倍率とに強い相関性がある。昨年は推薦入試の出願者が募集定員を下回った土木科の一般入試が0.58倍、逆に推薦定員を満たした生活環境科の一般入試が1.05倍となった。今年は土木科の一般入試は1.00倍前後、生活環境科は1.20～1.50倍に上昇するのではないか。いずれにせよ、推薦入試の動向は要チェックである。

滑川普通科について、富山地区の生徒が受験することもあり、新川地区の普通科の中では一貫して倍率は高目に推移している。ただし、昨年は1.09倍と、過去と比較して低倍率の入試となった。第4回模試では第一志望者数が減っているものの、昨年の反動もあり、倍率は、1.15～1.30倍に上がるのではと予想する。そして昨年1.60倍という高倍率を記録した商業科だが、一般入試より先に行われた推薦入試の段階で、すでに人気の兆候は見られた。逆に推薦入試が定員割れとなった薬業科、海洋科については、一般入試でも定員割れとなった。今年も桜井同様、推薦入試の倍率がカギを握りそうだ。現時点では、各科1.10～1.50倍の範囲に収まるのではないかと予想する。

次に入善普通科を見ていこう。昨年、募集定員が20名削減され、今年は入善地区・朝日地区の中3生徒数が増加しているにも関わらず、定員はそのまま。よって昨年の0.93倍よりは上がり、最終的な倍率は1.00～1.15倍に落ち着くのではと予想する。そして農業科は、近年の平均的な倍率である1.20倍程度と予想する。

雄山、上市に関しては、近年定員割れが常態化している。私立高校を第一志望として、早々に進路を決める生徒が年々増加している背景もあり、雄山普通科と上市総合学科は1.00倍前後、雄山生活文化科は1.05～1.20倍と予想する。魚津工業は、昨年、各学科で5名ずつの定員削減があったが、機械科は1.00～1.30倍、電気科と情報環境科は1.00～1.10倍と予想する。ただし、第一志望の学科以外でのスライド合格があることにも注意しよう。

最後に、中学3年生の皆さんへ。新川地区の高校は、他地区と比較すると、総じて倍率は穏やかなほうである。焦らず日々の勉強を積み上げて本番に備えよう。そして、高校にただ合格することがゴールではないと肝に銘じてほしい。高校に入ってから活躍できることのほうがより重要だ。今、志望校合格に向けて行っている努力は、決して無駄にはならない。必ず高校生になってからの、あなたの武器となる。

田中 太介［滑川校］

令和7年度 富山県立高校入試募集定員・令和6年度 一般入試倍率
第4回育英模試（10月実施）における第1志望者データ・目標点［全体平均118.7点］

富山地区

高校	学科	R7入試募集定員	R6入試一般倍率	第1志望者データ 人数	最高点	平均点	目標点
中央農業	生物生産	73	0.37	—	—	—	68
	園芸デザイン			—	—	—	68
	バイオ技術			—	—	—	68
八尾	普通	150	0.76	7	98	72.9	98
富山西	普通	140	0.78	9	75	57.1	79
富山	普通	160	0.81	184	173	134.5	142
富山（探究科学）	理数科学・人文社会科学	80	1.73	44	182	147.9	153
富山中部	普通	160	0.41	108	178	143.2	150
富山中部（探究科学）	理数科学・人文社会科学	80	2.35	140	188	159.0	163
富山北部	普通	120	1.53	39	129	79.5	102
	くすり・バイオ	80	1.11	7	106	83.1	89
	情報デザイン	40	1.09	7	107	74.7	89
富山工業	機械工学	80	1.48	9	106	63.6	84
	電子機械工学	40	1.06	3	85	65.3	90
	金属工学	40	0.62	2	78	62.5	81
	電気工学	80	0.63	4	80	73.5	86
	建築工学	40	0.86	9	101	85.9	90
	土木工学	40	0.86	1	74	74.0	77
富山商業	流通ビジネス	80	2.65	4	99	76.5	84
	ビジネスマネジメント	40	1.22	4	87	74.5	95
	会計ビジネス	40	1.75	9	110	72.0	88
	情報ビジネス	80	1.90	6	87	76.8	92
富山いずみ	総合	150	1.28	48	143	93.7	111
	看護	40	1.25	8	107	91.9	101
富山東	普通	240	1.11	115	150	118.7	131
富山南	普通	200	1.21	80	152	108.5	122
呉羽	普通	230	1.11	102	165	105.8	123

新川地区

高校	学科	R7入試募集定員	R6入試一般倍率	第1志望者データ 人数	最高点	平均点	目標点
入善	普通	140	0.93	7	85	66.1	96
	農業	30	1.16	—	—	—	70
桜井	普通	120	0.90	29	144	99.4	112
	土木	40	0.58	—	—	—	79
	生活環境	40	1.05	2	58	47.0	87
魚津	普通	160	0.97	69	151	117.6	131
魚津工業	機械	35	1.83	—	—	—	76
	電気	35	0.41	1	57	57.0	76
	情報環境	35	0.58	—	—	—	76
滑川	普通	80	1.09	13	110	86.0	106
	薬業	40	0.63	2	98	95.5	89
	商業	40	1.60	5	80	70.4	90
	海洋	40	0.80	1	62	62.0	68
上市	総合	150	0.55	3	60	41.0	78
雄山	普通	80	0.95	1	56	56.0	84
	生活文化	40	0.84	1	47	47.0	76

国立高専

学校	学科	R7入試募集定員	R6入試一般倍率	第1志望者データ 人数	最高点	平均点	目標点
富山高専	機械システム工学	40	1.85	9	137	109.7	123
	電気制御システム工学	40	1.86	24	152	115.1	125
	物質化学工学	40	1.33	17	147	122.8	129
	電子情報工学	40	2.68	23	156	120.8	131
	国際ビジネス学	40	3.50	15	169	130.3	133
	商船学	40	1.05	6	129	113.0	111
石川高専	機械工学	40	1.45	1	100	100.0	129
	電気工学	40	1.36	1	96	96.0	129
	電子情報工学	40	2.86	4	152	140.8	131
	環境都市工学	40	2.23	3	131	109.3	129
	建築学	40	2.60	6	136	105.7	131

表の見方 R7入試募集定員…一般入試・推薦入試の総定員の数です。
県立高校のR6入試一般倍率…（一般入試受験者数）÷（一般入試募集人数）
国立高専のR6入試一般倍率…（一般入試志願者数）÷（一般入試合格者数）

◎目標点は、第4回育英模試で志望校判定がB（合格可能性が70%以上80%未満）となる点数です。平均点/118.7点（200点満点）

※富山・富山中部・高岡高校の『探究科学科』は、「理数科学科」と「人文社会科学科」2学科の総称で、入試は2学科合計の定員で募集・実施されます。

第6回育英模試（1月実施）の第1志望者数と実際の入試倍率との相関性（主要高校）

高校	学科	育英模試第1志望者数 一昨年	育英模試第1志望者数 昨年	県立高校入試 実質倍率 一昨年	県立高校入試 実質倍率 昨年
富山中部	探究科学	160	146	2.28	2.35
	普通	100	89	0.56	0.41
富山	探究科学	74	99	1.71	1.73
	普通	174	193	0.83	0.81
高岡	探究科学	52	61	0.96	1.01
	普通	140	161	1.04	1.12
富山東	普通	155	150	0.93	1.11
呉羽	普通	122	115	1.22	1.11
富山南	普通	90	107	1.15	1.21
高岡南	普通	124	136	1.02	1.27
魚津	普通	105	84	1.01	0.97

※実質倍率=（一般入試受験者数）÷（一般入試募集人数）
※赤色は前年度に対して増加、青色は減少。

富山県立高校入試 過去3年間 学力検査平均点

	総合	国語	社会	数学	理科	英語
令和6年度	53.1	58.1	55.4	47.1	50.6	53.3
令和5年度	57.7	65.3	58.2	54.3	55.4	56.2
令和4年度	60.2	75.6	63.9	53.2	55.6	52.5

※100点満点に換算してあります。

富山県 高校入試 育英模試 まなびドクター MANABI DOCTOR
受験者数 県内No.1 ※自社調べ
この2回で志望校を確実に決めよう！
県内全域一斉開催！
47年にわたる高校入試指導の実績から精度の高い合格判定が可能！模試の結果をもとに専任教師が面談&アドバイスで実力アップ！
試験教科 社会・国語・理科・英語・数学
受験料 1回/4,730円（税込）
中学3年生対象
【第6回】実戦模試 R7 1/12(日)
【最終回】直前判定模試 R7 2/2(日)
※状況により実施日程や方法を変更させていただく場合があります。
［第6回・最終回セット申込］直前判定セット
1回4,730円のところを 4,620円×2回 9,240円 税込
第6回育英模試は一部の高校が志望校別会場となります
富山中部高校 第1志望者会場 富山県農協会館
富山高校 第1志望者会場 タワー111
高岡高校 第1志望者会場 高岡市農協会館 高岡文化ホール
魚津高校 第1志望者会場 魚津商工会議所
砺波高校 第1志望者会場 チューリップ四季彩館
※上記以外の高校が第1志望の場合は「地区別」会場での受験となります。
※上記高校が第1志望でも、「地区別」会場で受験可能です。（要連絡）
※どの会場でも当日志望校調査を行い、合格可能性判定をお出しします。
※各会場は予定です。収容人数の都合上、会場は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。
※「志望校別」会場が定員に達した場合は「地区別」会場となる場合があります。
※お申込み受付後、「志望校別」会場希望有無等の確認のため、電話連絡をさせていただく場合があります。
お申込はWebで！ Web受付は R7.1/5(日)まで
窓口・電話受付は前日まで申込OK！
特典「育英特待生」になれるチャンス！
「第6回育英模試」と「最終回育英模試」において、成績優秀と認められた生徒には育英センター高校部において「育英特待生」となる資格が与えられます。
君も挑戦しよう!!（「育英特待生」には月謝免除や奨学金支給の特典があります。）
令和6年度 高校入試合格実績
輝かしい実績が証明！
富山中部高校…120名 うち探究科学科 36名
富山高校…108名 うち探究科学科 46名
高岡高校…97名 うち探究科学科 34名
魚津高校…54名 片山学園高校…34名
砺波高校…33名 富山高専…40名
富山東…82名 呉羽…36名 富山南…30名 富山いずみ…21名 八尾…7名 富山北部…13名 富山商業…6名 富山工業…7名 高岡南…29名 福岡…17名 大門…13名 新湊…8名 氷見…3名
小杉…2名 高岡工芸…1名 高岡商業…2名 桜井…31名 滑川…16名 入善…15名 雄山…6名 上市…1名 魚津工業…2名 南砺福野…18名 石動…5名 砺波工業…3名 南砺平…1名
御三家（富山中部・富山・高岡）…合計325名合格
探究科学科…合計116名合格
富山県立高校…合計787名合格
※育英センター塾生のみの実績。講習生、模試生等は一切含まれません。
英知・徳・自立を育む
富山育英センター
〒930-0005 富山市新桜町6-22 TEL076-441-8006
北陸3県に拡がる育英のネットワーク
富山本部校 076-441-8006 幼児部 076-464-6933 小学部 076-441-8004 中学部 076-441-1200 高校部 076-433-9330 個別指導部 076-431-6881
城南本部校 076-493-1120 魚津本部校 0765-23-0531 高岡本部校 0766-26-0072 岩瀬校 076-426-0057 天正寺校 076-491-7071 婦中校 076-465-1010
滑川校 076-475-9222 黒部校 0765-56-9500 小杉校 0766-56-4666 新湊校 0766-82-2466 高岡駅南校 0766-26-1718 砺波校 0763-33-2323
小矢部校 0766-67-5161 ［石川県］金沢本部校・金沢中央校 東金沢校・小松校 ［福井県］福井本部校
※富山本部校受付時間 平日・土曜/9:00～21:00
※各校舎は火曜から土曜の13:30より開校いたします。
自分だけのカリキュラムで学習できる 学習塾 penet
大沢野校 076-468-3777 入善校 0765-74-2531 氷見校 0766-72-2828 福光校 0763-52-8877 ［石川県］県庁前校・津幡校